英米の社会と文化 I (その 2)

2 単位 2 年 (後期)

吉田 文美 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】英語詩を講読し，韻文で書かれたテクストの正確な読解，内容把握の訓練を行う．また，作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し，英語詩の評価 · 批評がおこなえる基礎を養成する．

【授業概要】主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む．作品の精読を通じて，英語で書かれた詩に対する理解を深め，作品の背景にある社会・文化状況についても考察する．後期 (その 2) では，前期 (その 1) で取り上げたものより，難解な作品が中心となる．

【キーワード】*introduction to English poetry*，*reading poems*，*poetry in English*

【先行科目】『英米の社会と文化 I (その 1)』(1.0)

【関連科目】『英米の社会と文化 II (その 1)』(0.5)，『英米の社会と文化 II (その 2)』(0.5)，『英米文化研究 I (その 1)』(0.5)，『英米文化研究 I (その 2)』(0.5)，『英米文化研究 II (その 1)』(0.5)，『英米文化研究 II (その 2)』(0.5)，『英米文化研究 III (その 1)』(0.5)，『英米文化研究 III (その 2)』(0.5)，『文化批評論 (その 1)』(0.5)，『文化批評論 (その 2)』(0.5)

【履修上の注意】隔年開講．2011 年は開講．

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については，正確な内容把握ができる．
2. 各作品の背景についても考慮し，作品の評価 · 批評が論理的にできる．

【授業計画】

1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です．
2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79),
3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962)
4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963),Thomas Hardy (1840-1928),
5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67),
6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996),
7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939)
8. なお，取り上げる詩人については，変更されることもある．

【成績評価】2 回のテストと，授業への出席 · 参加状況などから総合的に評価する．評価のうち，テストを 8 割，その他を 2 割程度とする．

【再試験】行わない．

【教科書】授業中に指示します．

【参考書】『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること．電子辞書の使用も可．その他は，授業中に必要に応じて指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) Mail (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講 (後期)．2011 年度開講..